

淺野氏出願芝浦
埋立及運河浚渫

工事考查復命書

工學博士川上浩二郎

復命書

御下命ヨリ東京市営芝浦埋立及び運河工事ヲ淺野
總一郎氏出願ノ通り民営トシテ施行スルノ利害得失ニ
付キ考查研究セシ結果民営トシテ經營スル一方法タル
株式會社ヲ組織スルニ當リ假令其株主ハ主トシテ運輸
關係者即チ直接此事業ニ利害關係ヲ有スル人士中
ニ求ムルモノトシテモ其民営ヨリ生ズル利益ガ市営ニ要
スル市債ノ利息ニ比シ却テ僅少ナルコトハ別紙理由書
ノ通りナルヲ以テ從テ株式會社ノ組織ハ困難ナルベク
然ラバ願書ノ末項ニ示ス如ク淺野氏外ニ三ノ特志家
ヨリ出資經營スルモノトセンカ之レ又營利ノ目的トシテ
ヨリハ寧ろ國家奉仕ノ誠意ニヨルニ非ラザレバ經營シ

能ハザル次第ニ御座矣、所此特志事業家ノ努力ニ
報スベキ防波堤代用ノ埋立増地ノ築造ハ今直チニ
許可シ能ハザル根本問題ノ横ハルモノアルハ又別紙理
由書ニ示ス如キ次第ニ御座矣、同結局本工事ハ民営
トシテ経営スルコトハ此際頗ル困難ノ儀ト被存矣ニ
付キ茲ニ理由書ヲ添附シ此旨復命ニ及ビ矣也

大正拾壹年九月二十六日

工學博士 川上浩二郎 

東京市長男爵後藤新平殿

野命書

理由書

浅野氏出願ノ要旨ハ芝浦埋立及ビ運河工事ヲ民営トシ
テ経営スルハ出資者ニ他ノ營利事業ニ比スレバ寧ロ其
利益少キモノナレドモ一般市民ニ與フル利益ノ多大ナルト此
事業ノ経営ニヨリ聊カ玉家奉仕ノ任務ヲ盡サントスル
ノ誠意ナルヲ以テ之レガ努力ニ對スル報酬トシテ防波堤代
用ノ埋立増地ノ経営ヲモ併セテ御許可相成リ度シトノ
趣旨ニ御座矣而シテ此等各工事ノ内容ハ實ニ左ノ如キ
モノト相成申シ矣

第一種工事 本年七月二十五日港灣調査會ヲ通過

シタル工事ニシテ埋立工事ハ一ノ二ノ三ノ地ノ合計

面積二拾八萬^三千余坪、干潮面以下二十五尺ノ水

深ヲ有スル岸壁五百間、護岸板柵三千百十九間、
防砂堤千五百十間、假設防波堤壱千間、船溜及ビ
運河浚渫土量七拾九萬立坪中三萬立坪ハ岩盤
他ハ土砂ヲ浚渫シ其浚渫土砂ハ全部之レヲ埋立ニ
使用スルモノトス而シテ淺野氏ハ之レヲ工費六百八拾
萬圓ヲ以テ二ヶ年間に竣功セシメントス
第二種工事 本工事ハ第一種工事ノ船溜ヲ保護ス
ル爲メ市當局が設計シタル假設防波堤延長
壱千間ニ代用スルニ淺野氏ハ新二月嶋ヲ起點ト
シテ旧第六及第三砲台ニ至ル埋立地面積約四
拾五萬六千坪ヲ増築シ船溜ニ面スル沿岸
約壱千貳百間ニ岸壁ヲ築造スル計畫ヲ

立テタルモノニシテ其工費約壱千萬圓トシ五ヶ年
間に竣功セシメントス

然ルニ第二種工事ハ叙上ノ如キ大工事ナルニ関セズ願書ニ
頗ル不備ナル陳述ヲナシヤリ即チ「將來ノ市ノ大計畫
ニ抵觸セサル程度ニ於テ聊々埋立地ヲ増加シ埋立増地ハ防
波堤ノ代用トナリ從テ御計畫ノ防波堤ハ築造セザル
設計ニテ云々ト有之ヌ」ニ御座ヌ、ドモ淺野氏ノ
願意ハ結局第一種及ビ第二種工事ヲ工費壱千六
百八拾萬圓ヲ以テ五ヶ年間に民営トシテ施工セントスル
モノニ外ナラズ、然ルニ斯ク輕易ニ記述シタル第二種工
事ハ出願ノ主體タル第一種工事ヨリ遙ニ大ナル工事タ
ルノミナラス之しか施工區域ハ市當局が將來ノ大計畫

ヲ立案スルタメ目下其地價ノ調査研究中ニ属スル場所
ニシテ從テ市當局ハ其船溜ニ沿ヒタル防波堤ハ假設
工事トシテ設計シ將來ノ大計畫ニ抵觸セザル用意ヲ
怠ラザルモノニ御座矣然ルニ今之レガ根本ノ調査ヲ終決
スルニ先ケ淺野氏出願ノ第三種工事ヲ施行スルトセハ將
来ノ大計畫ニ對シ此際既ニ其一部ニ決定の運命ヲ與
フモノナルヲ以テ技術上此防波堤ハ代用タル埋立増地ハ其
根本的調査研究ノ完結ヲ告グル迄ハ假設物ノ外一切
築造ヲ許スベキモノニ御座ナク即チ此際取急ギ詮
議スルヲ許サバ事情ノモノト相認メヌヲ以テ不肖ハ
第一種ノ工事即チ本年七月二十五日港灣調査會ヲ
通過シタル市宮ノ芝浦埋立及ビ運河工事ニ就テノミ

之レガ市宮ト民宮トノ利害得失ニ付キ調査研究ヲ
シ第二種工事ハ全ク他日ニ譲リ申ヌ
次ニ市當局ガ第一種工事ヲ工事費金六百八拾萬圓
ニテ五ヶ年間に竣功セシメントスルノ計畫ヲ立テタルハ工事
施行ニ要スル設備費ヲ最少限度タラシメントノ用意ト
且ツハ目下ノ經濟界ニ於ケル一般状況ヨリ該工事ヲニヶ
年内ニ急設スルヲ必要ト認メザルトノニヶノ理由ヨリ其
期間及ビ工費ヲ算出シタルモノニシテ若シ之レヲニヶ年
間に竣工セシムル必要アルニ於テハ今日ノ進歩シタル技術
ト榮達シタル機械力トヲ以テセハ固ヨリ不可能ニアラサ
ルモノナリト雖ドモ工費ハ施工期間ヲ短縮スル程度ニ応
ジテ設備増大ヲ要スル結果トシテ必ズ増加セザルガラス

即チ不肖ノ判定ニヨレバ第一種ノ工事施行期五ヶ年ヲ
ニヶ年トナスニハ六百八拾萬圓ノ工費ハ八百八拾萬圓ニ増
加セザルベカラズ而シテ假令八百八拾萬圓ノ工事費ヲ以
テスルモニヶ年間に第一種工事ヲ完成スルコトハ頗ル冒
険的タルヲ免レザルヲ以テ思慮アル技術者ノ採ラザル
所ニ御座矣即チ工事費ニ何等ノ制限ヲ附セザル場
合ニ於テモ該工事ヲ竣成スルニ三ヶ年ノ期間ヲ見込
以テ穩當ノ考案ト認メテ而シテ斯ク工期ヲ三ヶ年
トナス場合ニ於テモ浚渫船其他ノ設備増加及び其修
繕費トシテ五ヶ年ノ工期ノ場合ニ比シ工事費壹百萬
圓ヲ増加スルヲ要ス然レド願書ニハ第一種工事期間ノミ
ヲニヶ年ニ短縮シ工費ヲ六百八十萬圓ノ儘トナシ

ノ増額ヲモ見込マザルハ技術上決シテ適當ナシ計畫ト認メ
得ザルノミナラズ之ヲ實地ニ考フルニ現ニ淺野氏ノ所有セ
ラルル浚渫船ハ埋立地ニ近キ海底ノ浚渫ニ適スルモ埋立地ヨリ
遠距離ニ在ル浚渫ニハ使用シ能ハザル種類ノモノタルノミナ
ラス第一種工事ノ埋立地前面ノ海底ハ石盤ナルヲ以テ先ヅ
砕岩機ヲ使用シ之ヲ破碎シテ後浚渫シ得ヘシモ此
場合ニハ淺野氏ノ所有セラルル浚渫船ハ不適當ノ種類ニ屬
ス況ンヤ運河ノ浚渫ニ至ツテハ埋立地ヲ距ン遠ク三渾ノ沖
合ニ至ル場合アルヲ以テ淺野氏ノ所有セラルル浚渫船ハ
單ニ本工事ノ埋立ニノミ使用シ浚渫工事ニハ不適當
シタル種々ノ浚渫船及び之ニ附屬スル船舶ヲ購入又ハ借
入ノ方法ニヨリ新ニ設備セザルベカラズ岸壁工ノ築造

ニ於テモ亦之しが施工期限ヲ短縮スルタメニハ自然設備
ヲ増加セザルベカラズ然レドモ此等ノ増加シタル設備ハ工
事完成ノ既ニ於テハ相當價格ヲ以テ賣却シ得ルヲ
以テ其原費ノ約半額即チ五拾萬圓ハ償却シ得
ルモノト相成リ申シヌ

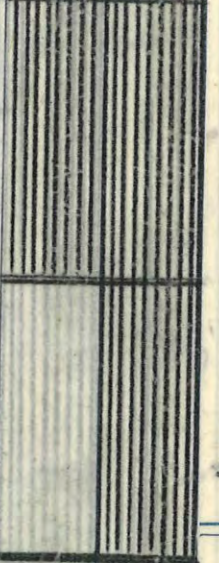
更ニ工事施行上ノ實際問題トシテ市ハ本年度ヨリ
本工事ヲ施行シ大正十五年度即チ大正十六年三月
末迄ニ本工事ヲ完成スルノ豫定ナルモ本年度ハ既ニ
四月ヨリ九月ニ至ル半ケ年ヲ市會及ヒ港河調査會
其他ノ制規ノ手續ヲ經由スル爲メニ空費シタリ然
レドモ不日許可命令ノ到達ト共ニ直チニ工事ニ着
手シ得ルノ状況ニ在ルヲ以テ結局市ハ第一種工事ヲ

四ケ年半ニテ竣功スルコトト相成リ申ヌ然ルニ此際之ヲ
民営ニ移サンカ之しが移管上ノ手續及ビ株式會社ノ組
織ニ要スル日數等ヲ見込メバ如何ニ順調ニ進行スルト雖
ドモ今後猶ホ半ケ年ヲ空費セザルベカラズ從テ本工
事ヲ民営ニ移スモ其竣功期限ハ市営ニ比シ僅ニ
一ケ年ノ短縮トナル次第ニ御座ヌ之ヲ圖示スルハ實
ニ左ノ如キモノト相成申ヌ

工事年限比較圖

年別	年度別	市営	民営	摘要
第一年	大正十四年度上半年期			ハ空費期間ヲ示ス
	大正十四年度下半年期			
第二年	大正十五年度			
第三年	大正十六年度			ハ工事施行ノ期間ヲ示ス

第四年 大正十四年度
 第五年 大正十五年度



民宮竣功
 市宮竣功

即チ市宮ト民宮トノ工事竣功遅速ノ問題ハ民宮ハ市宮ニ比シ僅カニ一ヶ年迅速ニ竣功シ得ルモノニ御座矣從テ此一ヶ年間に運河利用ノ解運賃貳百萬圓ハ僅ニ民宮ニヨリ利得ヲ生スルコトト相成矣然ルニ市宮ハ其工事費六百萬八拾萬圓ニテ竣功シ得ルモ民宮ハ工事期間ヲ短縮スルノ結果工事費ハ増加シテ七百八拾萬圓トナル理由ハ既ニ叙述セシ所ニ御座矣依テ民宮ノ工費ヲ七百八拾萬圓トシ工事期間ヲ三ヶ年ト改メタル結果民宮ト市宮トガ如何ナル利害得失ヲ市民ニ及ボスベキカラ比較スルヲ要スルハ右ノ如ク比較ノ條件ハ

浅野氏ノ指示セラレタルモノハ全部ヲ其儘採用シテ算出スレバ左ノ如キ結果ト相成申矣

市宮芝浦埋立及ビ運河工事

一、工事費總額六百八拾萬圓

一、竣工年數五ヶ年

一、工事費ニ年八分ノ利息ヲ加算スレバ左ノ如シ

年次	前年迄ノ工事費	工事費年割利息	元利合計	摘要
一	〇	一、三六〇、〇〇〇	一、四六八、八〇〇	
二	一、四六八、八〇〇	二、二六三、〇〇〇	三、〇五五、一〇〇	
三	三、〇五五、一〇〇	三、五三三、二〇〇	四、七六八、三二二	
四	四、七六八、三二二	四、九〇二、六五〇	六、六八一、五七七	
五	六、六八一、五七七	六、三三八、二八六	八、六一六、八六三	
計	〇	六、八〇〇、〇〇〇	八、六一六、八六三	埋立地面積ニ割當テ一坪三十四トナル

一、埋立完成後埋立地約三千萬坪ノ内六萬坪ヲ鐵道省等へ埋立費三千圓ニテ、他ハ全部左表ノ如ク賣却シ其

代金ヲ以テ右工事ヲ償却スルコト左ノ如シ

年次	坪数	立地費	償却代	元金ノ利息	元金償却	元金残	摘要
一	六〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	六八、九〇〇	一、二二一、〇〇〇	七、五〇六、〇〇〇	
二	一八、〇〇〇	四五、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	七、二九六、〇〇〇	
三	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	五八、四〇〇	一九九、〇〇〇	七、〇七〇、〇〇〇	
四	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	五六、六〇〇	三〇〇、〇〇〇	六、八七一、〇〇〇	
五	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	五五、〇〇〇	三二四、〇〇〇	六、五七一、〇〇〇	
六	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	五二、六〇〇	三五〇、〇〇〇	六、二四七、〇〇〇	
七	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	三四八、〇〇〇	五、八九七、〇〇〇	
八	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	四七、二〇〇	五九二、〇〇〇	五、三四九、〇〇〇	
九	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	四二、八〇〇	六三九、〇〇〇	四、七五七、〇〇〇	
一〇	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	三九、九〇〇	六九一、〇〇〇	四、二一八、〇〇〇	
一一	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	三七、四〇〇	七四六、〇〇〇	三、四二七、〇〇〇	
一二	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	八〇六、〇〇〇	二、六八一、〇〇〇	
一三	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二一、四〇〇	八七〇、〇〇〇	一、八七五、〇〇〇	
一四	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	九四〇、〇〇〇	一、〇〇五、〇〇〇	
一五	一七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	八五五、〇〇〇	六五、〇〇〇	
計	三〇〇、〇〇〇	四九、六〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	六三、四三〇	八、五五二、〇〇〇	六五、〇〇〇	

一、即チ埋立竣工後十五年ニテ運河ハ無代トナルモ埋立費ハ全部償却スルヲ得スニテ六萬五千圓ノ償却残トナシ

民営芝浦埋立及ビ運河工事

一、工事ニ要スル資本金七百八十萬圓ヲ株式組織トシテ最初ヨリ最終迄年五カノ利息ヲ配當スルコト

一、工事竣工年數ヲ滿三ヶ年トシ竣工後埋立總坪數

三十萬坪ノ内六萬坪ヲ市ニ埋立実費一坪三十圓ニテ

賣却シ其他ノ二拾四萬坪ハ左表ノ如ク賣却處分

ヲナシテ會社ヲ解散スルコト

一、運河ハ無償ヲ以テ市ニ提供スルコト

年次	坪数	立地費	償却代	利息(五カ)	借入金	借入金又ハ利息	全上通計	備考
一	一	一	一	三九、〇〇〇	〇	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	借入金利息
二	一	一	一	三九、〇〇〇	三、三〇〇	四二、二〇〇	八、一一、二〇〇	八年八分トク
三	一	一	一	三九、〇〇〇	六、四九〇	四五、四九〇	一六、六六、一〇〇	
四	一	一	一	三九、〇〇〇	一〇、二九〇	五五、七八〇	二六、九四、〇〇〇	
五	一	一	一	三九、〇〇〇	一四、〇九〇	六九、八七〇	四二、六〇、〇〇〇	
六	一	一	一	三九、〇〇〇	一七、八九〇	八三、七六〇	五八、二六、〇〇〇	

[illegible]

一、即ケ埋立竣工後十五ヶ年ニテ運河ハ無代トナルモ埋立
費ハ全部償却スルヲ得ズシテ十二萬二千三百九十四ノ
償却残トナリ市営ニ比シ五萬七千四百多シ

一市宮之比竣功期間今年早キヲ以テ解損失一年
分即チ二百萬圓ノ損失ヲ放フコトヲ得

12 松野製

一、新ニ増加シタル百萬圓ノ設備ハ工事竣工後五拾萬圓ニテ賣却シ工事費ノ償却ニ充當ス
一、株主ハ主トシテ運輸関係者即チ本工事ニ直接ノ利害ヲ有スルモノヨリ募集シ年五分ノ配當ヲ承諾シタルモノトシテ算出セシモ若シ市債同様ニ年八分ノ利息ヲ配當ニ見込ムトキハ株主ハ市債ノ代リニ株式募集ニ依リタル爲メ結局最終迄ニ四百貳拾萬圓ノ配當ヲ損スルコトナル

結論

以上市営ト民営トノ二表ヲ對照スレバ市営ハ竣工後
十五年ニシテ工事費ノ償却未済額六萬五千円ヲ
残スニ止マルモ民営ニ在テハ工事費ノ償却未済額

拾貳萬貳千余圓ト株式ト市債トノ配當差額四
百貳拾壹萬圓トハ全然^{關係}市民ノ負担スベキ損失ニシ
テ民営ニヨリ得ル利益ハ弊損失ヲ救フベキ貳百力
圓及ビ増加設備費却代金五拾萬圓ニ過ギサルヲ以
テ差引百八拾萬圓ハ本事業ヲ民営トスル爲メ
ニ市営ニ比シ^{關係}市民が負担スベキ損失ヲ生ジタル
結果トナルヲ以テ結局本事業ノ民営ハ不利益
ナリトノ結論ニ到達スルモノタリ
以上技術上ノ利害關係ノ外市営ヲ民営タラシムルニ
ハ幾多ノ複雑ナル關係ヲ各方面ニ及ボスヤ明ナリト雖
ドモ不肖ノ外漢ノ定規知スル所ニ非ラザルヲ以テ全然
之ヲ除外シテ以テ本研究ノ終リトナス